

ナシヒメシンクイが平年よりも多く発生しています

ー第二世代幼虫の適期防除に努めましょう！ー

1 発生状況等

県内4か所(那須烏山市、宇都宮市、芳賀町、高根沢町)に設置したすべてのフェロモントラップにおいて、ナシヒメシンクイ越冬世代成虫が4月に平年よりも多く誘殺されました(図1)。

気象庁の1か月予報(令和7(2025)年5月22日発表)によると、今後1か月の平均気温は平年より高くなる見込みで、本種の発生に適した気象条件が継続することが予想されます。今後、第一世代成虫の発生動向を注視し、第二世代幼虫の適期防除に努めましょう(図1、表1)。

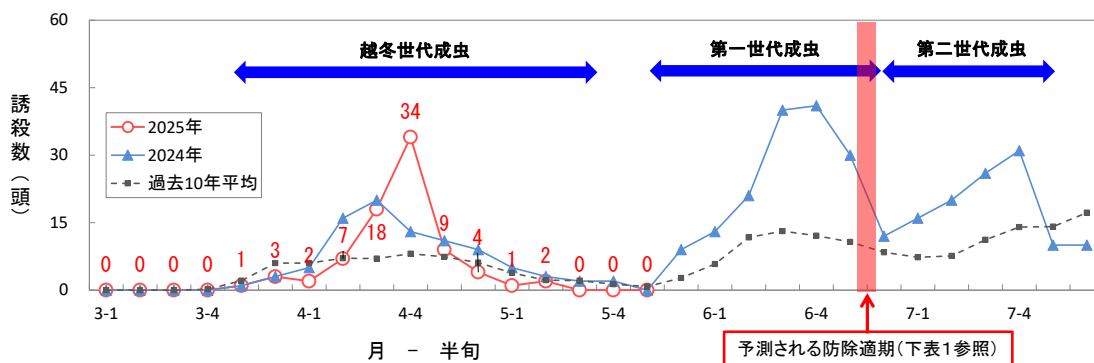


図1 フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ成虫の誘殺状況と防除適期(那須烏山市)

表1 積算気温によるナシヒメシンクイ第一世代成虫の発生予測日と第二世代幼虫の防除適期

地点	越冬世代成虫の 誘殺最盛期※1	予測される第一世代成虫 の誘殺最盛日※2	予測される第二世代幼虫 の防除適期※3
那須烏山市	4月第4半旬	6月17日	6月24~26日
宇都宮市	4月第4半旬	6月13日	6月20~22日
小山市	4月第4半旬	6月12日	6月19~21日

※1 フェロモントラップ調査結果参照 (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/boujo/yosatsu.html>)。

※2 アメダスデータを活用した予測値。

※3 第一世代成虫の誘殺最盛日から7~9日後が、第二世代幼虫の防除適期。

2 防除対策

- (1) なし園内、またはその付近のりんご、もも等の被害新梢はただちに摘除し、園外へ持ち出し適切に処分する。
- (2) 交信攪乱用フェロモン剤を設置することで、次世代以降の発生を抑制する。
- (3) フェロモントラップ調査による第一世代成虫の誘殺ピークを参考にし、第二世代幼虫を対象とした適期防除を実施する(表1、2)。
- (4) 次世代成虫の発生を防ぐため、被害果はただちに摘除し、園外へ持ち出し適切に処分する。
※ 果実の初期被害は葉や果実同士が接触する部分で発生しやすいため、よく確認する。

表2 なしのシンクイムシ類に登録のある薬剤（令和7年5月14日現在）

農薬名	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数	IRAC コード
スカウトフロアブル	2000 倍	収穫前日 まで	散布	5 回以内	3 A
アディオンフロアブル	1500 倍	収穫前日 まで	散布	2 回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	2000～4000 倍	収穫前日 まで	散布	3 回以内	4 A
ディアナWDG	5000～10000 倍	収穫前日 まで	散布	2 回以内	5
ノーモルト乳剤	1000～2000 倍	収穫前日 まで	散布	2 回以内	15
サムコルフロアブル10	2500～5000 倍	収穫前日 まで	散布	3 回以内	28
テッパン液剤	2000 倍	収穫前日 まで	散布	2 回以内	
エクシレルSE	2500～5000 倍	収穫前日 まで	散布	3 回以内	
ヨーバルフロアブル	5000～10000 倍	収穫前日 まで	散布	2 回以内	

3 生態等

- ・幼虫は淡褐色で、成熟すると体長約 10mm（写真1）。新梢や果実に食入する。
- ・成虫は黒褐色で、体長 5～7 mm（写真2）。
- ・なし、りんご、もも、うめ、すももなど多くの果樹を加害する。
- ・果樹の新梢が伸びる時期に主になし以外の果樹新梢を加害し（写真3）、その後、なし園に飛来し、なしの果実を加害する（写真4）。

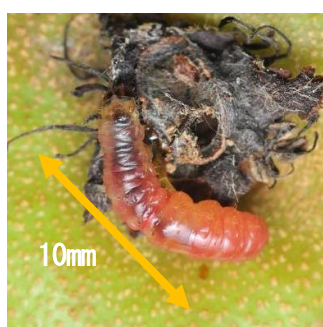


写真1 幼虫

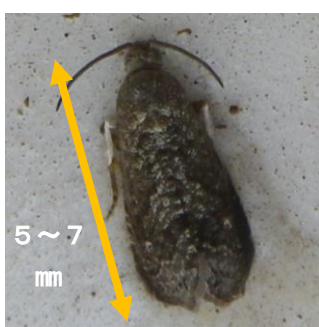


写真2 成虫



写真3 ももの被害新梢



写真4 なしの被害果

詳細は、農業総合研究センター 防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せください。
 病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、
 農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）
 でもご覧いただけます。

